

授業科目(ナンバリング)	栄養教育論実習 I (1B353) (実践的教育科目)			担当教員	川野香織 ・ 高江洲有沙 (実務経験のある教員)		
展開方法	実習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
栄養教育論 I・II で修得した知識を基に、様々なライフステージの対象者（個人や集団）に応じた栄養教育を行うことができる技術や手法を修得する。具体的には、対象者のアセスメントから抽出した課題を基に栄養教育計画・学習指導案を立案の上、効果的な栄養教育を展開することができる実践力を、模擬栄養教育を通して修得する。							②③④ ⑥⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	修得した知識を応用し、対象者の課題と食および環境との関連を説明することができる。				・定期試験	30%	
情報収集、分析力	対象者の課題を明らかにし、重点を絞った栄養教育を組み立てることができる。 与えられた課題を読み取る力をつけることができる。				・定期試験	30%	
コミュニケーション力	ライフステージ別の特徴を踏まえた栄養教育を平易な表現でプレゼンテーションができる。				・プレゼンテーション ・ロールプレイ	10%	10%
協働・課題解決力	与えられた課題に対し、グループメンバーで協働し、解決に向けた取り組みができる。その際、自らの考えを述べることができる。				・プレゼンテーション ・授業態度	10%	10%
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験による評価(60%)は、実習内で学修した栄養教育論や臨床栄養管理学・公衆栄養学を基礎とした内容を筆記試験で行う。プレゼンテーション（模擬集団栄養教育）の評価（20%）およびロールプレイ（模擬個別栄養教育）の評価（10%）は、対象者のアセスメント結果および自らの考えやグループの意見を反映させた課題解決が望める栄養教育であるか、対象者にとって平易で理解しやすいかを評価する。なお、プレゼンテーションおよびロールプレイの評価は、模擬栄養教育終了後の事後レポートと併せて評価を行う。授業態度（10%）は、実習へ臨む態度、グループでの取り組み姿勢やメンバーとの協力態度等で評価する。 ・資料やレポートの提出はポートフォリオを活用し、授業内でフィードバックする。 							
授業の概要							
<ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージ別の対象（集団および個別）を想定し、模擬栄養教育を行うことを主とした授業である。その際、適切な栄養教育計画を立案し、それを基に作成した教育媒体を活用したプレゼンテーションや、個別栄養教育に必要な栄養カウンセリング技法を活用したロールプレイを通して学修する。 ・テーマによって3～6名のグループで模擬栄養教育の準備から実践までを行う。模擬栄養教育実施後は、全員でディスカッションを行い、教育内容等を評価し合う。 ・担当教員の病院や保健所、教育機関等での実務経験から現場をイメージした具体的なアドバイスをを行い、より実践的な技術の修得へ導く。 ・授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分である。 							
教科書・参考書							
教科書：「マスター栄養教育論実習」建帛社 参考書：日本栄養士会編「管理栄養士・栄養士必携」第一出版、「改訂マスター栄養教育論」建帛社、 「食品成分表2020」女子栄養大学出版部、栄養科学シリーズNEXT「応用栄養学 第5版」講談社、 「日本人の食事摂取基準」2015年版 第一出版 指定図書：「改定マスター栄養教育論」建帛社							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教育の実施においては、対象者との信頼関係が不可欠であり、その際には栄養カウンセリング技法の活用が求められるため、それらを日ごろの生活から意識し、多くの人とコミュニケーションを図る中で実践することを求める。 ・授業中の私語、携帯電話、メール等は厳禁、無許可での途中退出は不可とする。 							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	栄養教育のための基本 (栄養アセスメント) (1-1)	栄養教育に必要なアセスメント (栄養素等摂取量の把握)	栄養アセスメントの種類を予習する。食事調査に必要な標準的な食品の重量等を復習する。
2	栄養教育のための基本 (栄養アセスメント) (1-2)	栄養教育に必要なアセスメント(栄養素等摂取量の把握とその他必要な情報の収集)および課題の抽出	栄養摂取量等から課題抽出する流れを予習する。流れのポイントを復習する。
3	栄養教育のための基本 (栄養アセスメント) (1-3)	アセスメント結果と抽出した課題、改善策の提案(プレゼンテーション)(事後レポート)	効果的なプレゼンテーション技術を予習する。教員や学生からの評価内容を基に振り返る。
4	対象者別栄養教育 (2-1) (集団教育)	妊娠期 集団栄養教育に向けた計画の立案	妊娠期の特徴や問題点、マネジメント計画を予習する。妊娠期の特徴を復習する。
5	対象者別栄養教育 (2-2) (集団教育)	妊娠期 集団栄養教育に向けた計画に基づく栄養教育の準備(教育媒体等作成)	妊婦への模擬栄養教育のポイントを予習する。教育媒体作成のポイントを復習する。
6	対象者別栄養教育 (2-3) (集団教育)	妊娠期 集団栄養教育の実施 (栄養教育のプレゼンテーション) (事後レポート)	妊婦への効果的なプレゼンテーションに向けて予習する。教員や学生からの評価内容を基に振り返る。
7	対象者別栄養教育 (2-4) (個別教育)	個別栄養教育に必要なカウンセリング技法 妊娠期 個別栄養教育の実施 (ロールプレイ)(事後レポート)	妊娠期の個人が有する問題の解決に向けた栄養教育を予習する。個別教育のポイントを復習する。
8	対象者別栄養教育 (3-1) (集団教育)	授乳期・離乳期・幼児期 集団栄養教育に向けた計画の立案	授乳期・離乳期・幼児期に関連する特徴や問題点を復習し、栄養教育計画を予習する。授乳期の栄養教育のポイントを復習する。
9	対象者別栄養教育 (3-2) (集団教育)	授乳期・離乳期・幼児期の集団栄養教育の準備(教育媒体作成等)	授乳期・離乳期・幼児期の特徴や問題点解決のための教育方法を予習する。各期のポイントを復習する。
10	対象者別栄養教育 (3-3) (集団教育)	授乳期・離乳期・幼児期の集団栄養教育の準備(教育媒体作成、リハーサル等)	授乳期・離乳期・幼児期への分かりやすいプレゼンテーションに向けて予習する。幼児期の栄養教育のポイントを復習する。
11	対象者別栄養教育 (3-4) (集団教育)	授乳期・離乳期・幼児期の集団栄養教育の実施 (栄養教育のプレゼンテーション) (事後レポート)	授乳期・乳児期・幼児期へ効果的なプレゼンテーションに向けて予習する。教員・学生等からの評価内容を基に振り返る。
12	対象者別栄養教育 (3-5) (個別教育)	離乳期・幼児期 個別栄養教育の実施 (ロールプレイ)(事後レポート)	離乳期・幼児期の個人が有する問題の解決に向けた個別教育の方法を予習する。個別教育のポイントを復習する。
13	対象者別栄養教育 (4-1) (集団教育)	高齢期 栄養教育に向けた計画の立案	高齢期の特徴から問題点の抽出、マネジメント計画を予習する。問題解決のための教育計画を復習する。
14	対象者別栄養教育 (4-2) (集団教育)	高齢期 栄養教育に向けて計画に基づく教育の準備(教育媒体作成等)	高齢期の問題点を絞り、問題となる課題に関連した教育計画を予習する。効果的な栄養教育を復習する。
15	対象者別栄養教育 (4-3) (集団教育)	高齢期 集団栄養教育の実施 (栄養教育のプレゼンテーション) (事後レポート)	高齢者への効果的なプレゼンテーションに向けて予習する。教員や学生等からの評価内容を基に振り返る。
16	定期試験		